

最近の管内経済概況

～ 持ち直しの動きが鈍化している ～

最近の動きをみると、

○個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。

○公共工事は、減少傾向となっている。

○住宅建設は、持ち直しの動きが鈍化している。

○民間設備投資は、低調ながら持ち直しの動きがみられる。

○観光は、持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況となっている。

○生産活動は、持ち直しの兆しがみられる。

○雇用動向は、厳しい状況にあるものの、改善している。

○企業倒産は、件数は増加、負債総額は減少している。

全体として、管内経済は、持ち直しの動きが鈍化している。

なお、先行きについては、国内外の経済情勢等を十分注視する必要がある。

平成24年4月12日

照会先：経済産業省北海道経済産業局
総務企画部調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：hokkaido-chosa@meti.go.jp

U R L：http://www.hkd.meti.go.jp

管内経済概況判断の推移

(平成24年4月現在)

発表月	23年11月	12月	24年1月	2月	3月	4月
総括判断	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している
全国	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している	
個人消費	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しさが増している	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている
公共工事	減少傾向	減少傾向	減少傾向	減少傾向	減少傾向	減少傾向
住宅建設	緩やかながら持ち直しの動き	緩やかながら持ち直しの動き	緩やかながら持ち直しの動き	緩やかながら持ち直しの動き	持ち直しの動きが鈍化している	持ち直しの動きが鈍化している
民間設備投資	低調ながら持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き	低調ながら持ち直しの動き
観光	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況	持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況
生産活動	横ばい傾向	横ばい傾向	横ばい傾向	横ばい傾向	持ち直しの兆し	持ち直しの兆し
雇用動向	厳しい状況にあるが、改善の動き	厳しい状況にあるが、改善の動き	厳しい状況にあるものの、改善している	厳しい状況にあるものの、改善している	厳しい状況にあるものの、改善している	厳しい状況にあるものの、改善している
企業倒産	件数は増加、負債総額は減少	件数は増加、負債総額は減少	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも増加	件数は増加、負債総額は減少

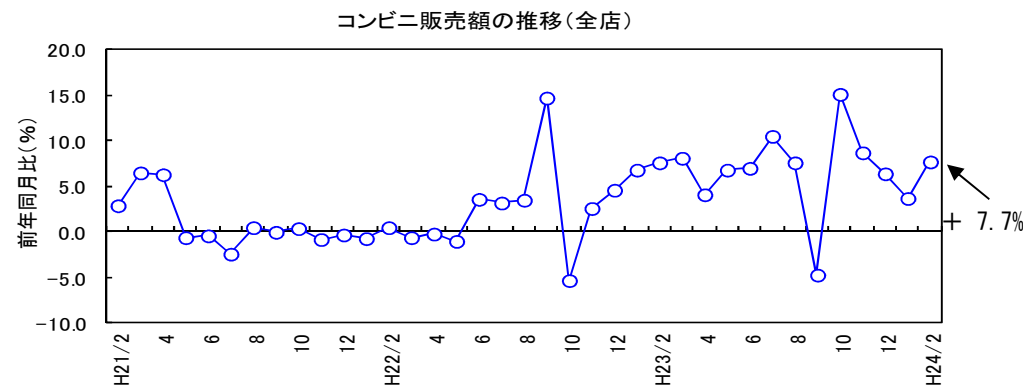
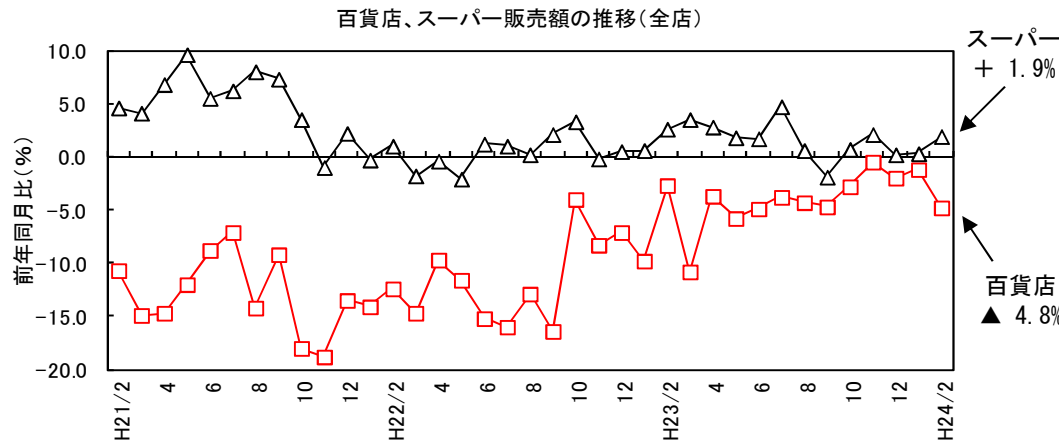
※全国は、内閣府「月例経済報告」の基調判断。

個人消費 ～一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている～

個人消費①

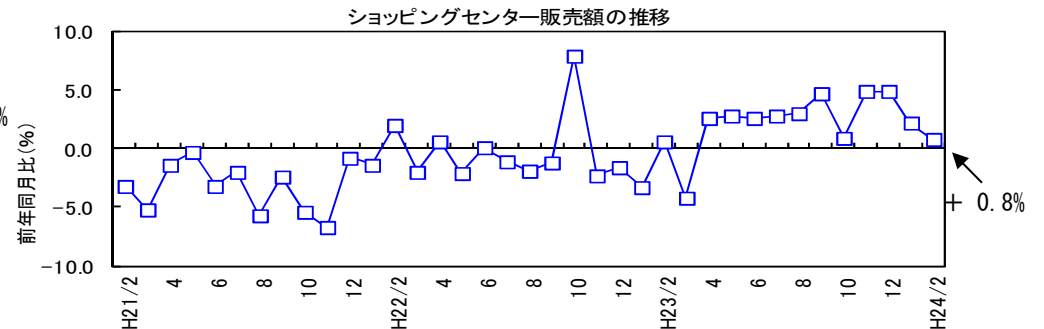
●百貨店、スーパー、コンビニ販売額（2月）

- ・百貨店は、気温が低く春物衣料の動きが鈍かったことなどから、前年同月比▲4.8%となった。
- ・スーパーは、うるう年効果で飲食料品等が前年を上回ったことなどから、同+1.9%となった。
- ・コンビニは、同+7.7%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・2月は大雪や天候不順の影響などで来店客数が落ち込んだほか、気温が低く主力の衣料品で春物が動かずトータルで前年を下回ったが、3月の節句に向けての雛人形や宝飾・貴金属などの高額商品の動きは順調だった。(百貨店)
- ・うるう年で1日多かったため売上は前年を上回った。消費者の財布の紐が堅い傾向は変わっていないが健康志向が強く、マスコミで取り上げられたヨーグルト、トマトジュース、塩麴などが爆発的な売れ行き。また、大雪などによりネットスーパーの売上も大きく伸びた。(スーパー)
- ・2月は厳しい寒さの上に大雪も多く、各地の雪まつりなどのイベントも来場者数が減るなどマイナス要因が多かったが、うるう年効果や割安感のある野菜、インフルエンザ予防に効果的との報道があったヨーグルトなどが好調で、前年を上回った。(コンビニ)
- ・2月は寒さが厳しかったため、早めに春物商品に総入れ替わりしたヤング向けなどのアパレル関係が不振だったものの、レストランやカフェが地下歩行空間の効果で好調が続いており、売上は前年比プラスとなった。(ショッピングセンター)
- ・3月は昨年の震災後の落ち込みの反動で大幅に伸びると予想していたが、それ程でもない。寒い日が続く春物衣料の動きが悪いことが響いているようだ。(百貨店)
- ・昨年は震災の影響で中旬以降、水や缶詰等の特需があったが、今年はその反動減があるほか、卒業、入学や新生活などに関するものは順調だが、気温が低いことから春物衣料の出足が鈍い。(スーパー)
- ・3月は震災の影響が大きく傾向がよくみえない。昨年の乾電池、水などの買いだめの反動減がある一方、自衛隊が被災地に応援に出かけた地域などでは一時的に人口減となり売上が落ちたことの影響増があるなど、要因が入り乱れている。(コンビニ)



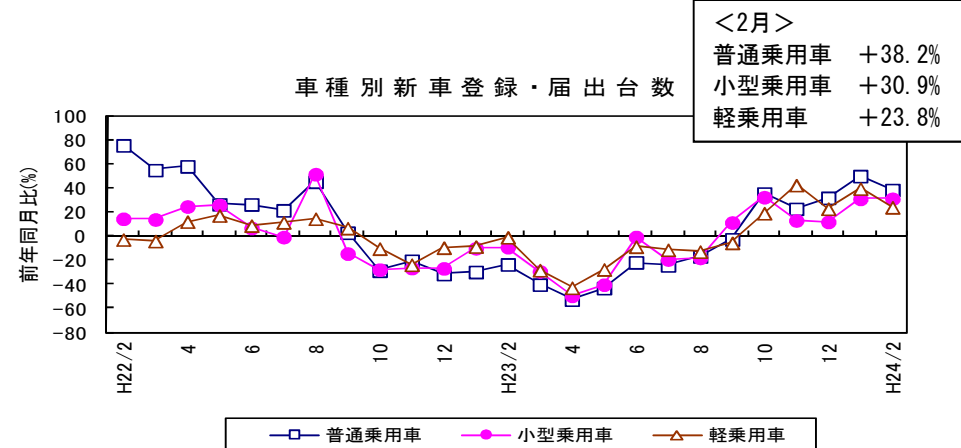
●新車登録・届出台数、家電販売額（2月）

- ・新車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体では前年同月比+30.6%となった。
- ・家電販売は、薄型テレビなどの売上が落ちており引き続き低調。



【企業ヒアリング内容】

- ・エコカー補助金の復活や新型車の投入が相次いで市場が盛り上がっているため、例年よりも早くお客の動きが活発になっており、2月の新車販売は前年比15%増となった。(ディーラー)
- ・現行のエコカー減税制度がそろそろ終了を迎え、新しいエコカー減税では基準が厳しくなり対象にならない車種も出てくることから、多少の駆け込みもみられる。(ディーラー)
- ・3月は、昨年は震災の影響により大きく落ち込んだことから今年は大きく伸びる。23年度トータルで見ると、3月に入って決算期のため販促イベントを行っており、順調にいけばなんとか前年度を上回る見込み。(ディーラー)
- ・2月の来客数は、前半はなんとか前年を上回ったが、中旬以降は昨年家電エコポイント終了前の駆け込み需要があったことからマイナスとなった。購入点数は昨年と変わらないが、薄型テレビをはじめ全体的に単価が下落しており、2月の売上は前年を下回った。(家電販売)
- ・インフルエンザの流行に伴って空気清浄機や加湿器が売れはじめ、2月中旬をピークによく売れた。空気清浄機は花粉症対策として今後も一定の需要が見込まれる。(家電販売)
- ・3月は、昨年の家電エコポイント終了前の駆け込み需要や震災によって通常よりも防災用品が売れたことの影響が出るほか、全体的に単価が下落しているため、売上が前年を上回ることはないだろう。(家電販売)

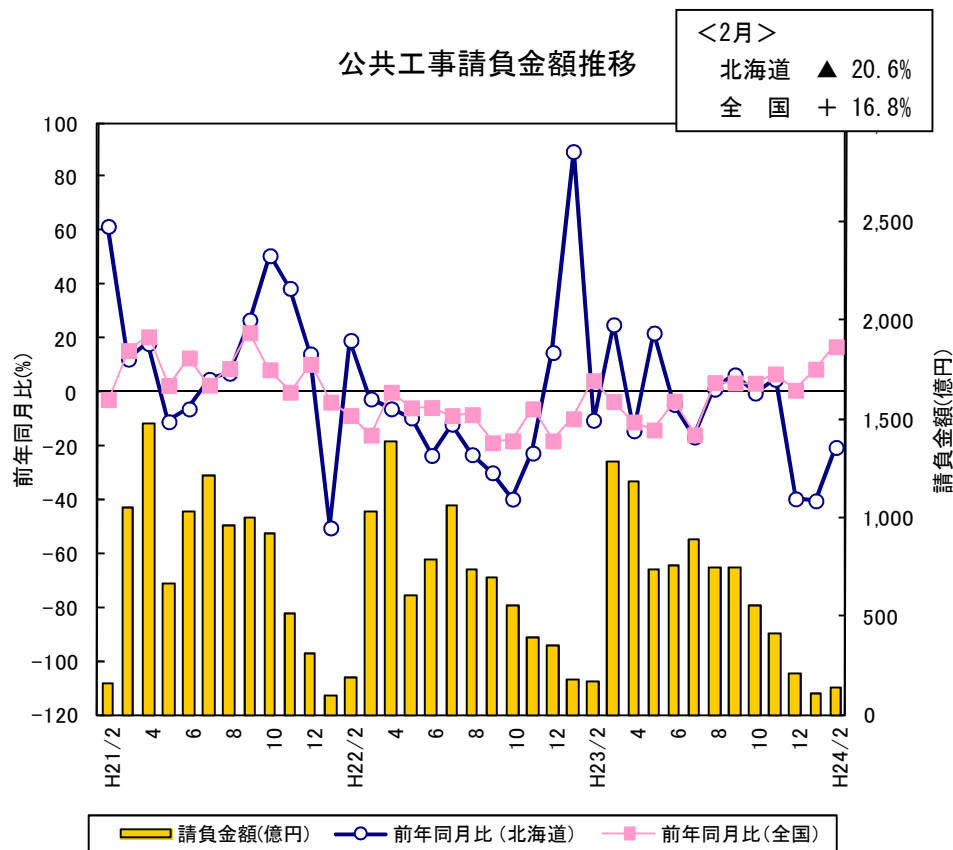


(資料:(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会)

公共工事 ～ 減少傾向 ～

公共工事

・ 2月の公共工事請負金額は、国、市町村が前年を上回ったものの、道、独立行政法人等が前年を下回り、全体では前年同月比▲20.6%となった。

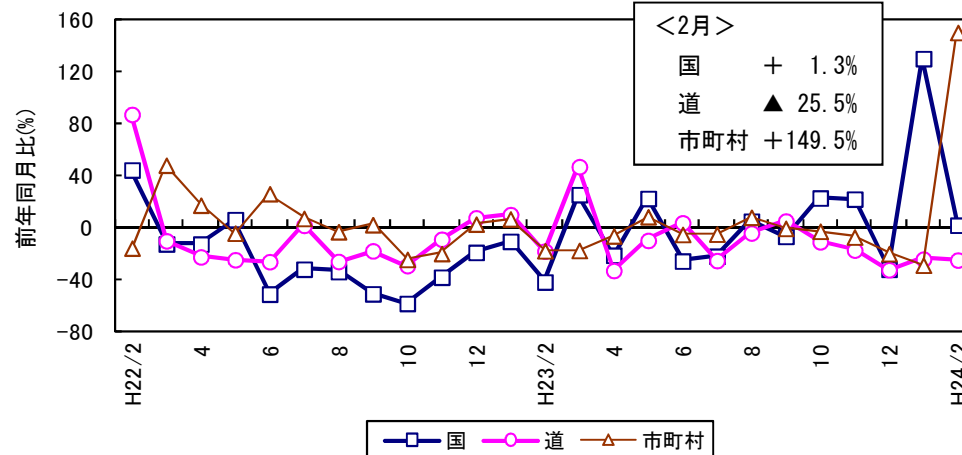


(資料: 北海道建設業信用保証(株))

【企業ヒアリング内容】

- ・ 国は発注工事数が減ってきている。冬期という时期的な要因と防災がらみという理由からか、河川工事の発注はある程度出ているものの、道路工事などは減っている。(建設)
- ・ 当社の公共工事向け製品の売上げは、秋以降前年比でマイナスの月が続いており、4月と5月も過去15年で最少額の売上になる見込み。(コンクリート製品)
- ・ 年明けから補正予算関連の工事が多少出てきたが、公共工事の落ち込みが続く中、大幅に減少している。当社は民間の大型プロジェクトや公共施設の耐震工事などの受注で建築部門がなんとか前年を上回り、全体では前年並みを確保する見込み。(建設)
- ・ 当地域では1月に河川の大型工事の発注等があったため、年度トータルで見ると公共工事は前年比で微増する模様。しかし、建設会社の経営は競争の激化やそれにとまらぬ落札金額の低下等で厳しい状況。(関係団体)
- ・ 5月の連休明け頃から、どれだけゼロ国債の仕事ができるかが、その年の経営を左右する。現状では予算的にも発注件数的にも前年を下回っており厳しい状況。さらに心配しているのは、昨年のように公共工事のスタートが遅れること。(建設)
- ・ 道内の公共工事関連は最悪の状況が続いている一方、東北や関東地域がやっと動きだした。特に東北地域では相当の復興需要が見込まれているようだ。(建設、コンクリート製品)

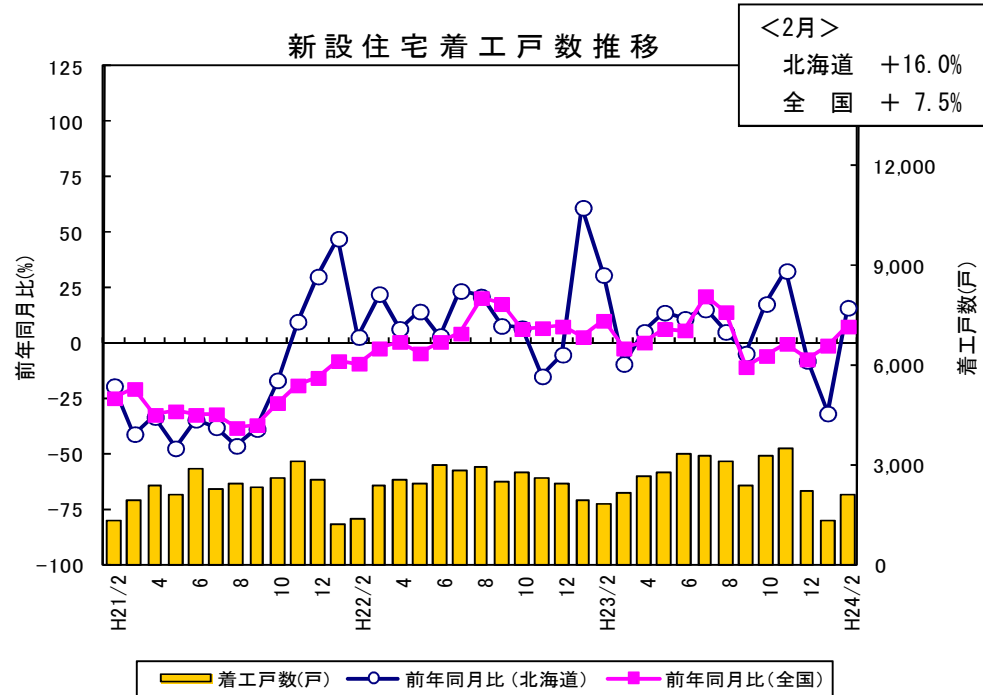
発注者別公共工事請負金額推移



住宅建設 ～ 持ち直しの動きが鈍化している ～

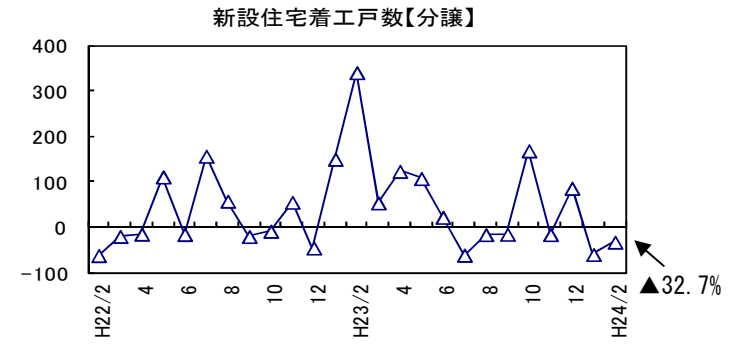
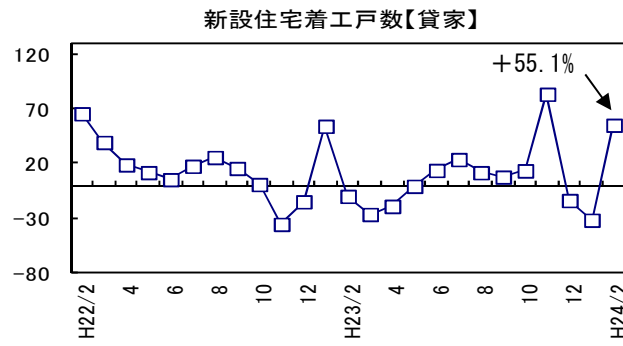
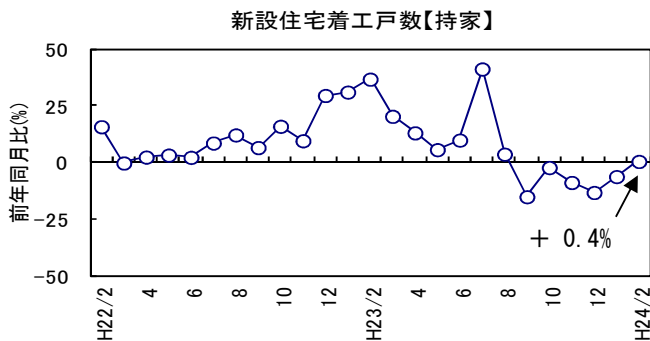
住宅建設

・ 2月の新設住宅の着工戸数は、分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回り、全体では前年同月比 +16.0%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・ 新春の住宅展示場でのイベントへは来場者が戻ってきているので、着工戸数が増えてほしいところだが、今のところ大きな伸びはみられない。(住宅)
- ・ 当社のお客はフラット35sの利用が多かったので、昨秋に新設されたフラット35sエコの利用も多いとみており、住宅着工の呼び水にはなっていない。(住宅)
- ・ 市内のマンションは条件の良い都心部には一通り建てており、業者が良い土地を手当てできなくなっている。このため在庫が少なくなっているが、新規物件を次々と建てられる状況ではない。(関係団体)
- ・ 札幌はまだマンション需要が本格的ではないとみているので様子見の状態。在庫は少なくなっているが、経済状況が大きく改善している訳ではないので、どんどん建てられる状況ではないだろう。(マンション)
- ・ 札幌市内をはじめとして介護サービス関係の企業がケアホームなどの賃貸を多数建てているので、これが着工戸数を引っ張っているかもしれない。(住宅)
- ・ 当地域では、小さい子供がいるファミリーは家の音で周りに迷惑をかけないように、アパートよりも戸建てへの入居希望が多く、戸建て賃貸物件が伸びている。(関係機関)
- ・ 消費税増税ということになれば駆け込み需要はあるだろうが、経済が停滞している中、伸びているのはローコスト住宅ばかりで、着工戸数全体が急激にV字回復することはないだろう。(住宅)



(資料:国土交通省)

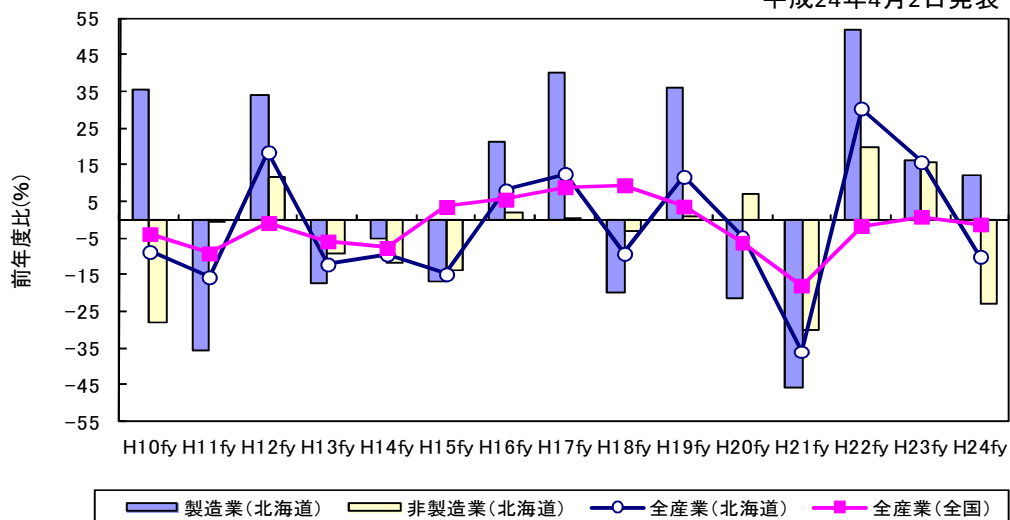
民間設備投資 ～低調ながら持ち直しの動き～

民間設備投資

・24年度の設備投資は、維持・更新が中心であるが、輸送機械等で能力増強投資などもみられる。

日銀短観の設備投資動向(製造業、非製造業別)

平成24年4月2日発表



	<23年度計画>	<24年度計画>
北海道	+15.7%	▲10.1%
製造業	+16.2%	+12.1%
非製造業	+15.5%	▲23.3%
全国	+0.8%	▲1.3%

(資料: 日本銀行札幌支店) (注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額を除く。

法人企業景気予測調査 (設備投資)

平成24年3月14日発表

前年(同期)比 (%)	23年度 (見込み)	24年度 (計画)	24年度 (計画)	
			上期	下期
全産業	▲ 2.1	▲ 6.6	▲ 3.7	▲ 8.9
製造業	▲ 37.6	45.0	62.7	28.3
非製造業	16.8	▲ 14.7	▲ 15.4	▲ 14.2

(資料: 北海道財務局) (注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

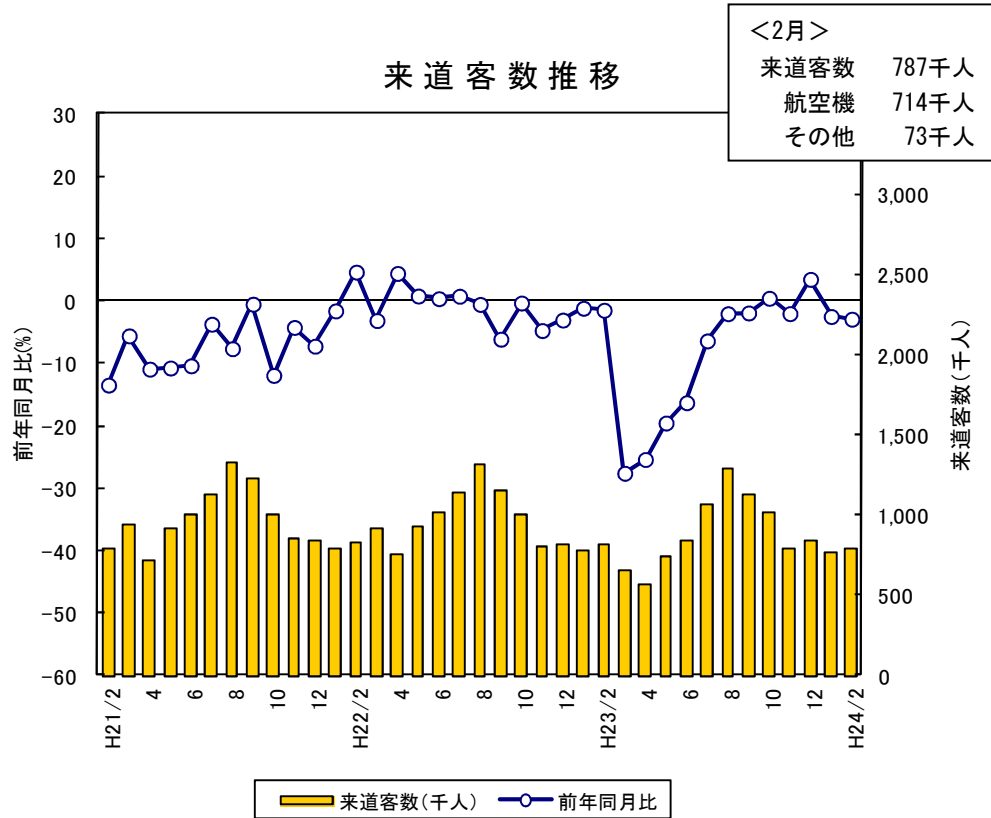
【企業ヒアリング内容】

- ・24年度は販売が好調な新型車向け部品の設備投資を行う。(輸送機械)
- ・設備投資は基本的には維持補修のみであるが、現在販売している新製品の売上が好調であれば、24年度中に製造ラインの能力増強投資を検討している。(食料品)
- ・23年度の設備投資は売り場の移動やLED照明への交換など小規模なものであるが、24年度はレストランの改修やエレベーターの補修など新たな設備投資を行う予定。(百貨店)
- ・24年度は海外で需要が高まっている素材の原料を製造するため、既存設備を数十億円かけて改造する予定。(紙パルプ)
- ・23年度は新規出店を中心に新たな設備投資を実施。24年度も同様の計画で同じくらいの投資額になる見通し。(小売)
- ・22年度に冷蔵機器を更新したので、23年度以降の計画は維持補修のみ。(食料品)
- ・24年度は住宅展示場のモデル住宅が老朽化したので建て替えを行う。新たな設備投資は久々のこと。(住宅)

観光 ～持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況～

観光

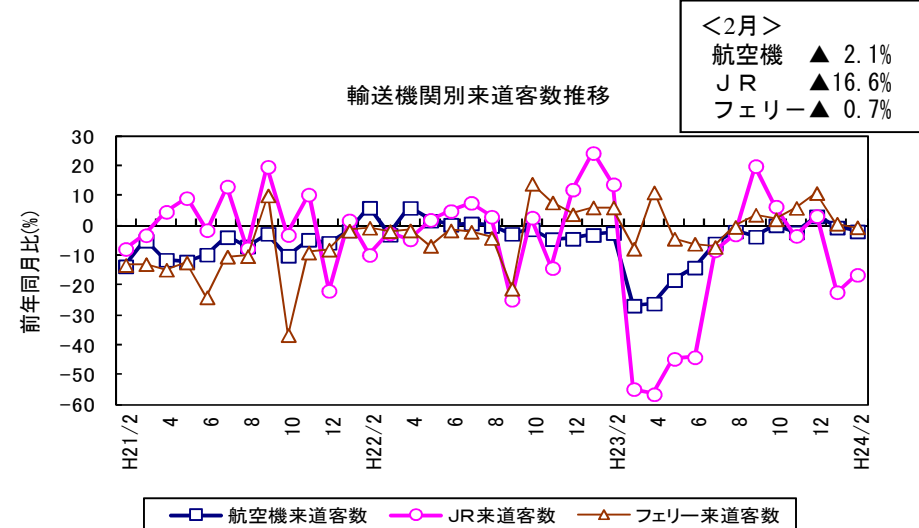
・2月の来道客数は、前年同月比▲2.9%となった。



(資料: (社)北海道観光振興機構)

【企業ヒアリング内容】

- ・当ホテルのさっぽろ雪まつり期間中の稼働率は、前年を上回ることが出来ず売上も落ちてしまった。1月末から2月中旬頃までの豪雪の影響により飛行機の欠航やJRの運休が相次ぎ、高単価のお客のキャンセルが出たことが痛手となった。(ホテル)
- ・2月の宿泊数は良くなかった前年並。旧正月が1月になり海外客が減少したため、雪まつり期間などは国内客を積極的に受け入れた。国内客の方が宿泊単価が高いため、業績としては前年より少し良くなった。(ホテル)
- ・2月は旧正月が1月になり、台湾、香港などの団体客が昨年より減少したほか天候が悪くJRが運休になったため、国内客、海外客ともに新千歳経由の団体客のキャンセルが増加し入園者数のマイナスが拡大した。(観光施設)
- ・当地域の流水観光は流水初日が昨年よりも早く、終日は昨年より遅くなっている。流水観光船の乗船客数は1月は旧正月によって台湾客が戻り、2月も国内客が順調で前年を上回る日が続いており好調。(関係機関)
- ・当地域もさっぽろ雪まつりなどの波及効果があり2月中旬ぐらいまでは良かったが、それからイベントの減ってしまう3月下旬まで厳しい状況。今後はおもてなしや食事の充実、他地域との連携などでお客が選べるコース作りが必要と考える。(関係機関)
- ・3月の市内の主なホテルの稼働率は6割を超え、昨年は震災の影響で大きく落ち込んだため前年差は二桁のプラスとなったが、一昨年と比べるとまだマイナス。宿泊単価も落ちたままのホテルが多い。(関係団体)

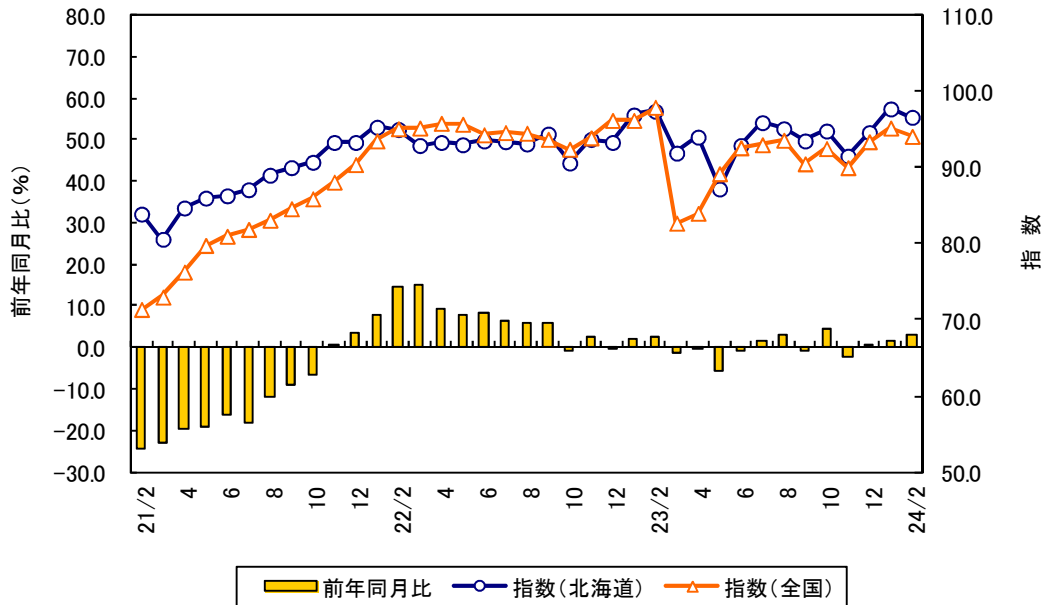


- ・ 2月の鉱工業生産は、前月比▲1.1%と3か月振りの低下、前年同月比+3.1%と3か月連続の上昇となった。
- ・ 窯業・土石製品工業、電気機械工業、食料品工業等が低下、輸送機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が上昇した。

鉱工業生産指数(平成17年=100)

<2月> (速報)
季節調整済指数

北海道	96.6
全国	94.1



【企業ヒアリング内容】

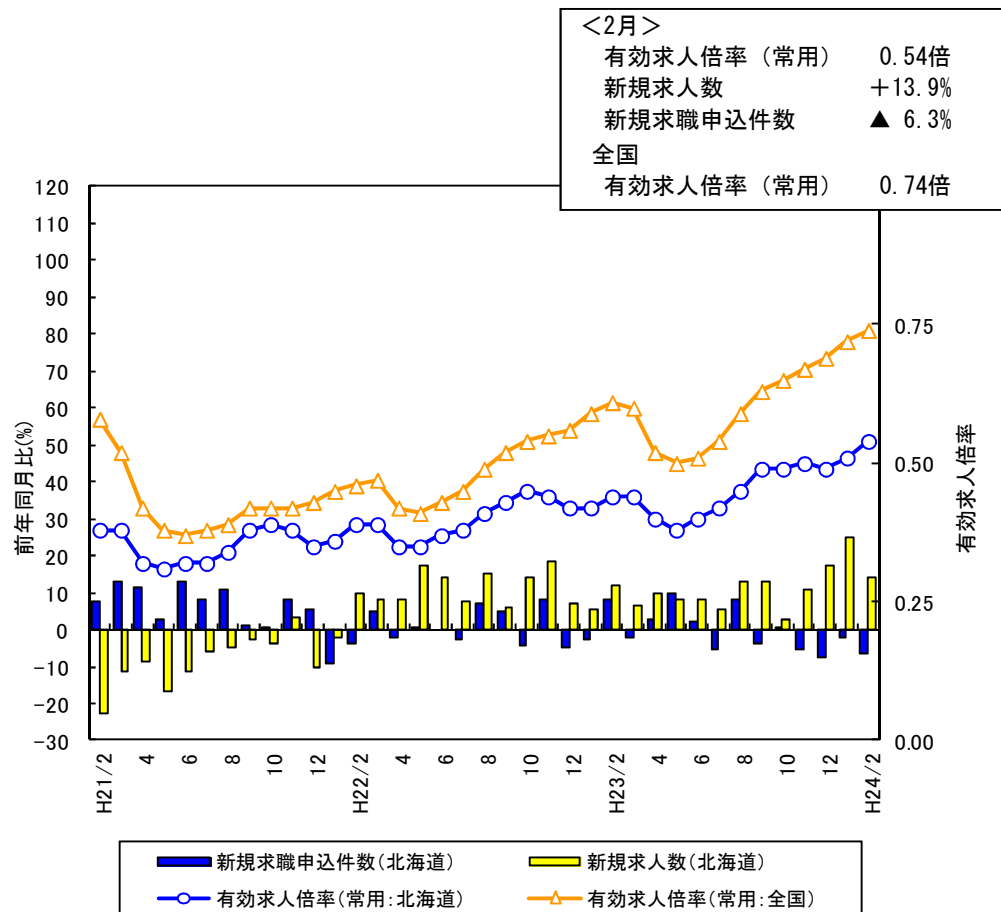
- ・ 2月は悪天候などにより船積み滞り影響でセメントが計画通り出荷出来ず在庫が高止まりしたことより生産を落とした。(窯業・土石)
- ・ 世界経済の停滞、半導体業界の生産調整の影響を受けて低調な生産を続けており、未だに先行きの明るさがみえない。(電子部品)
- ・ 昨年夏の天候不順でビートの発育が悪く、十分な原材料が確保できなかったことにより、製糖期間が早めに終了した。(食料品)
- ・ 前月、完成船舶の受け渡し作業で一時的に生産水準が低下したが、2月は通常の生産に戻った。(輸送機械)
- ・ 今春の段ボール市況は値上げされる見込みで、駆け込み需要があり生産量を増やした。(紙パルプ)
- ・ 特殊車両の更新などを背景に受注が増えていて、先月に引き続き高水準の生産を維持している。(輸送機械)
- ・ 先月に引き続きフル生産で道内外の需要に対応している。バックアップ生産が続いているほか、今後、生産ラインの定期修理を控え、在庫の積み増しをしていく。(石油製品)
- ・ 2月は設備の不具合等により生産量は減少。輸出は徐々に円安となっていることから増加の方向で検討している。(鉄鋼)
- ・ 蛇籠は公共工事関連の受注が予想以上に減少しており低水準であるが、建築用金網は春以降、民間ビルの建設で動き出す見込み。(金属製品)

(資料: 経済産業省、北海道経済産業局)

雇用動向 ～厳しい状況にあるものの、改善している～

雇用動向

- ・ 2月の有効求人倍率は0.54倍と、前年同月差で0.10ポイント上昇した。
- ・ 新規求人数は前年同月比+13.9%となった。新規求職申込件数は同▲6.3%となった。
- ・ 事業主都合離職者は同▲12.6%となった。



(資料:厚生労働省、北海道労働局)

【企業ヒアリング内容】

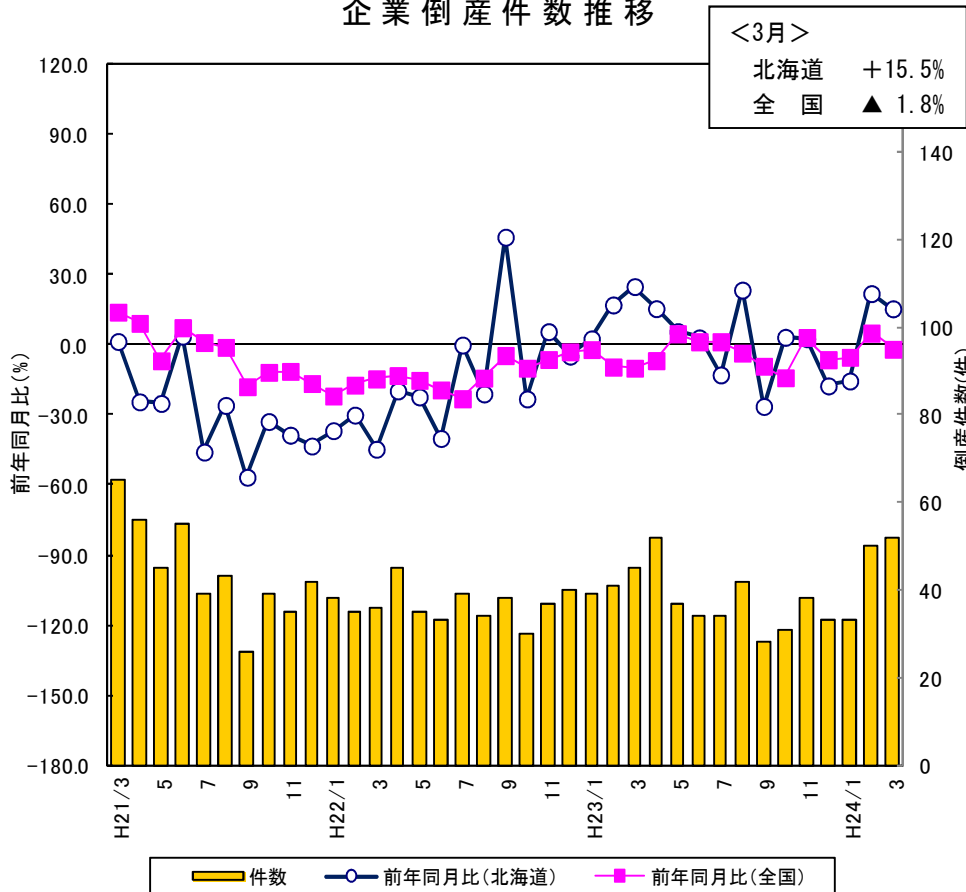
- ・ 今春は高卒を10数名、新規採用する。世代交代のため一定規模の採用継続の必要があり、来春もほぼ同じ人員数を確保したい。また、年齢構成の平準化を目的として、新卒のみならず中途採用も継続して実施。(鉄鋼)
- ・ 23年度末で定年退職者が数名おり、24年度はその補充として中途採用を実施する予定。優秀な人材がいれば即雇用する方針である。(金属製品)
- ・ 今春の新規採用は工場の製造ラインの人員として高卒を数名採用する。(紙パルプ)
- ・ 新卒・中途など新規採用は、5年前から人員構造の適正化のため実施しており今後も一定期間は採用数の上限を設けて継続する。(サービス)
- ・ 新規採用は本社が一括して実施するが、ここしばらく新卒も中途も採用していない。売上高の規模で考えると今の人員で十分足りるし、新規出店についても既存店舗から人員を回すことで足りている。(小売)
- ・ 23年度は定年退職者が数人出て、その補充のためと社員構成の高齢化の是正のために今春、高卒を徐々に数名採用する。(建設)
- ・ 今春の新規採用は大卒を10数名採用した。しばらく一桁の採用数が続いていたので、年齢構成の若返りを図りたい。中途採用は、昨年、業務多忙により営業職を採用したことと、今春の新卒採用が多いため、24年度はないと思う。(住宅メーカー)
- ・ 就職支援サイトを通じたエントリー数が減少している。就職活動の期間が短くなったため、とりえずエントリーしておこうという本州の学生が減少したためと思われるが、当社の新規採用は道内の学生が中心のため、大きな影響はない。(自動車ディーラー)

企業倒産 ～ 件数は増加、負債総額は減少～

企業倒産

- ・ 3月の倒産件数は、52件で前年同月比+15.5%となった。
- ・ 負債総額は、78.9億円で同▲36.2%となった。

企業倒産件数推移



(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

【企業ヒアリング内容】

- ・ 当地域で倒産している企業は建設業や卸売業が多いようだ。先行きの見通しは難しいがプラス材料が少ないため、倒産件数増加の傾向は続いていくのではないかと。(関係機関)
- ・ 公共工事の発注件数が減っているため入札競争は相変わらず激しく、受注できる企業とできない企業に二極化しており、受注できない企業は借金のないうちに廃業しようというところも増えている。(建設)
- ・ 原油高による燃料価格の高騰で運送会社が特に厳しいと聞いている。このまま値上がりが続けば廃業や倒産が出てくるかもしれない。(関係団体)
- ・ 水産加工会社でも昨年と比較して経営が苦しくなってきたところが出てきているようだが、具体的に倒産が増えているという話は聞いていない。(食料品)
- ・ 近隣のホテルが昨年からは休業しているが、当地域ではそれ以外の大型倒産や休業などは聞いていない。現在は震災による観光客数の落ち込みを各ホテルともなんとか耐えているが、そろそろ本格的に回復してこないかと体力的に厳しい。(ホテル)
- ・ 資金を回転させるため、赤字を覚悟して最低価格で受注している建設会社もあり、このような状態が続いている企業は、今後中小企業金融円滑化法の期限が切れるとバタバタと倒産してしまうのではないかと。(建設)

業種別倒産件数推移

